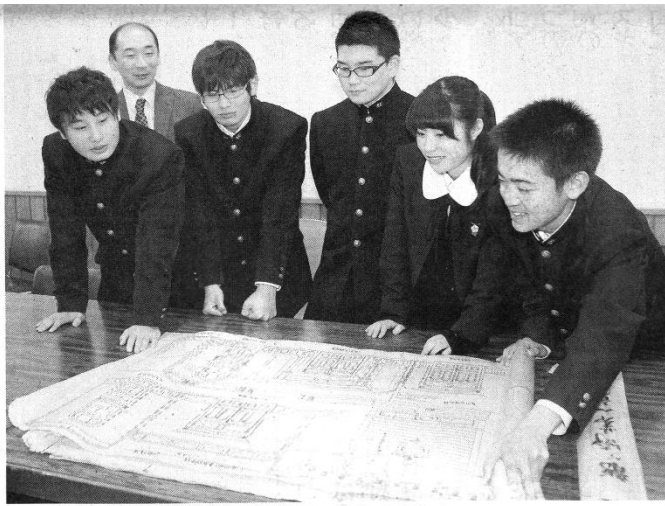


竜ヶ崎一高生が最優秀

櫻井徳太郎賞 明治期の講堂を調査



竜ヶ崎第一高校で小野教諭（左から2人目）と一緒に講堂の設計図を見て研究・調査を振り返る生徒5人（17日、竜ヶ崎市で）

かした。同校は前年も別の生徒有志による論文で最優秀賞を受賞している。

受賞の2年生5人「次世代へ語り継ぐ」

県立竜ヶ崎第一高校（竜ヶ崎市）の2年生5人が共同研究でまとめた論文『まぼろし』の講堂を追って「竣工、解体、そして伝説へ」が、全国公募の第15回「櫻井徳太郎賞」高校生の部の最優秀賞に選ばれた。かつて明治・昭和期にあった講堂について、竣工から解体までの歴史や担っていた役割の変容を解き明かす。同校には設計図のほか、装飾部材が残されており、指

櫻井徳太郎賞 民俗学者・柳田国男に師事した元駒沢大学長の櫻井徳太郎氏（1917～2007年）にちなみ、在住していた東京都板橋区が創設。地域に密着した民俗学、歴史学、考古学の発展を目的に青少年などの研究を顕彰している。

導に当たった小野威人教諭（49）の呼びかけでチームを組み、昨年3月から調査をスタートさせた。

県立太田第一高校（常陸太田市）、同水海道第一高校（常総市）、同水戸第二高校（水戸市）でも、同じ設計図を基に講堂が建てられたとみられ、各校に残る資料や写真との比較を行った。国の重要文化財に指定され、唯一現存する太田一高の旧講堂では昨年8月、現地調査を実施。設計図の尺寸の単位をメートル法に換算し、巻き尺で測った。

実測の結果、建物外周の縦横の長さは完全に一致したが、ステージ幅など室内の寸法は最大で約17センチの誤差が確認された。また、装飾部材のデザインが各校で若干異なっていたこともわかった。

それ以前から竜ヶ崎一高の同窓生へのアンケートや個別の聞き取り調査も行っており、情報を積み上げ、8月末から手分けして執筆を開始。各自担当した部分をいったん書き上げた後、全員で全体の文章構成を整えながら、それぞれの個性を生かした文章にしようと、9月末の応募締め切りの寸前まで議論を重ね、約1万6000字の論文にまとめた。論文は「研究を通して学校の伝統や学校教育の変遷を知った。自らが通う学校の存在意義を次の世代に語り継ぎたい」と締めくくった。

櫻井さんは「調査に出かけるたびに新たな発見や情報があった。多くのOBの協力がなければ論文は成り立たなかったと感謝する。小野教諭は「生徒の知的好奇心の強さに圧倒された。この経験を今後の進路に生かしてほしい」とたたえた。授賞式は3月11日、東京都板橋区で行われる。